

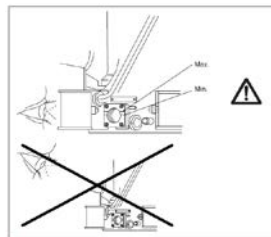
DIP 12000/50000 油拡散式真空ポンプのメンテナンス

真空ポンプの性能を最大限に発揮させ故障を防ぐためには定期的なメンテナンスが必要です

① 日常的な点検

オイルレベルの確認

ポンプを停止させ、オイルサイトグラス部で点検。
オイルサイトグラスと同じ高さの目線で確認してください。
オイルレベルがMinレベル以上であることを確認してください。
オイルレベルが下がると、オーバーヒート、真空不良の原因となります。
オイルを注入する場合は必ずポンプを停止させ、**ポンプが冷却してから**
注入してください。



オイルの色と漏れをチェック

通常、オイルは透明です。黒ずんだ場合は交換してください。
劣化したオイルの使用は故障の原因となります。



汚れのレベルが2.0以上の場合、交換が必要です

② 定期点検

オイル交換

1か月ごと、もしくは、オイルの汚れが激しい場合は必要に応じて行ってください。

オイル量 Min / Max(L) DIP12000 : 3 / 5.5 DIP50000 : 15 / 25

ノズルユニットの清掃

1年ごとに、エーテルまたはアセトンで洗浄してください。

ヒーター周りの清掃

1年ごとに、圧縮空気などで清掃してください。

冷却水パイプの清掃

1年ごとに、冷却水パイプを清掃してください。

③ 運転設定条件

水質条件：左記

水温の条件

入口温度 15°C~20°C 出口温度 30°C以下

最大許容フォア圧力

< 6xE-1 mbar (< 60 Pa)

注意：周囲温度が80°C以上となる場合がありますので
可燃性ガス、可燃物を周囲に置かないで下さい。

3.4 Coolant Connections

The coolant should exhibit the following qualities:

pH value (PH値)	7.0 to 8.5
Chloride content (Cl ⁻) (塩化物)	≤ 75 mg/l = 2.1 mmol/l
Sulfate content (SO ₄ ⁻) (硫酸塩)	≤ 70 mg/l = 2.1 mmol/l
Calcium ions (カルシウムイオン)	> 1.0 mmol/l = 5.6°dH ≤ 2.7 mmol/l = 5.6°dH
Hydrogen carbonate hardness (炭酸水素塩)	7 to 10°dH
Particle size (粒子サイズ)	≤ 150 μm
Coolant pressure should not exceed 6 bar. (水圧6バール以下)	

④ 定期オーバーホール

作業内容

- ポンプの分解、清掃
- 各種消耗部品の交換 (Oリング、ガスケット、ヒーター等)
- 各種部品の検査
- 組立
- 運転テスト及び能力確認

詳しくはライボルト株式会社 技術・サービスセンターまでお問い合わせください。

〒305-0854 茨城県つくば市上横場1959

TEL : 029-839-5480 / FAX : 029-839-5485

